

2018年4月

春号
—Vol.34—

ISO15189認定を取得して
循環型の医療連携へ

地域医療連携室からのお知らせ



人事消息

退職医師のお知らせ

平成30年2月28日付
消化器内科
細木 弥生

理念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し質の高い医療を提供します

基本方針

- 1.患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
- 2.急性期医療を中心にして診療を進めます
- 3.救急医療の充実に努めます
- 4.地域の医療機関等との連携を推進します
- 5.国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
- 6.職員の教育、研修を充実させます
- 7.健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

私たちが患者さまの権利を尊重します



旭川赤十字病院職員行動規範 5つの約束

- 1.私たちは、来院される方と職員に笑顔で挨拶をします
- 2.私たちは、初対面の患者さまに、自己紹介をします
- 3.私たちは、電話の最初に、部署と名前を名乗ります
- 4.私たちは、患者さまに診察や説明をしたあとに「何かわからないことやご質問はありませんか?」とお尋ねします
- 5.私たちは、院内で迷われている皆様にお声掛けをし、ご案内します

(発行)

旭川赤十字病院 地域医療連携室

〒070-8530 北海道旭川市曙1条1丁目1番1号

tel.(0166)22-8111(代表) fax.(0166)22-8287(直通)

URL <http://www.asahikawa.jrc.or.jp/> Email renkei@asahikawa.jrc.or.jp

循環型の医療連携へ

連携医療機関の皆様にはいつもお世話になりますありがとうございます。「医療連携」を担当して8年間になります。担当当初の医療連携は急性期病院で治療を終了した患者さんをかかりつけの医療機関へ速やかに転院して頂くと言う一方通行の感じがありました。しかし、現在では急性期病院(当院)→回復期リハビリテーション病院→かかりつけ医(在宅医療)→急性期病院(当院)と循環型医療連携へと変化しています。当院の使命は急性期疾患の診断治療に加えて在宅医療を支援し、かかりつけ医、訪問看護ステーション、介護施設と協力して、慢性疾患の急変に当院の入院設備、検査機能を活かすことにあります。

「断らない救急」は医療連携の中で当院に課された重大な役割です。しかし初期医師臨床研修制度の開始に伴う大学医局の医師引

き上げの大波の中で当院も産科、婦人科、小児科、精神科の撤退、消化器内科医師減少等が続き十分に対応出来ない時期がありました。残念ながら「断らざるを得ない救急」と言う不名誉な状況も経験しました。最近は医師の充実も進み、断り件数も次第に減少傾向にあります。とくに新年度は呼吸器外科が新設され、内科系新規診療科の開設も計画中です。また消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、神経内科、外科、皮膚科、脳神経外科で医師の増員もあります。初期研修医もフルマッチし、10名全員国試合格致しました。スタッフ医師、研修医を合わせると130名に及ぶ体制となります。体制としては「断らない救急」が実践できる状況がやっと見えてきました。ただ体制の整備のみならず、院長から一職員に至るまで、院内の全員の気持ちが一つに成らなければ本当の「断らない救

急」は実現しません。「救命救急センター」への救急車搬入台数も昨年度までは減少傾向にありました。今年度は月平均390.8台、年間では約4,700台と昨年と比べて300台あまりの増加に転じています。「断らない救急」の精神が病院全体へ浸透し、皆様へ受け入れられつつある成果と考えております(図1)。また連携室経由での紹介患者さんも連携の強化、各診療科の再充実に伴い、増加傾向にあり、今年度は5,000名を超えそうです(図2)。但し、逆紹介率は未だ十分な上昇には至らず、ご紹介頂いた患者さんを各連携医療機関へお返しする努力はまだ不十分と考えております(図3)。この点は今後更に強力に推し進めていきます。

救急医療に加えて認知症診療での医療連携も重要な役割と考えています。新オレンジプランの中で地域における認知症診療の核になる「認知症初期集中支援チーム」の活動がいよい

よ旭川でも開始されます。当院は専門病院として協力して参ります。物忘れ外来では認知症学会専門医、認知症看護認定看護師、常勤の臨床心理士、MSWが力を合わせ、MRIやSPECTの高度診断設備を駆使し対応しております。また、入院における認知症ケア体制(認知症ケア加算1取得)も整備しておりますので、こちらもご活用ください。

ITを駆使した医療情報共有、遠隔医療も重要ですが、最後は人との触れ合いを基本とした顔の見える医療連携が原点と考え、引き続き努力して参ります。

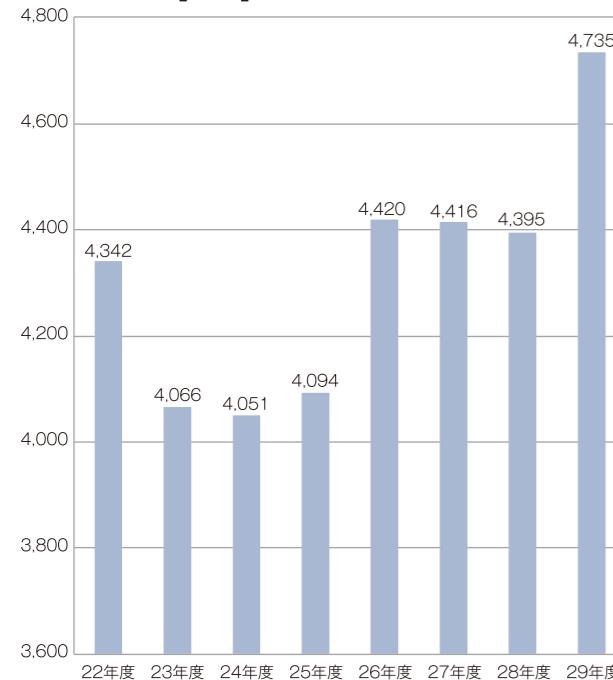
私事ですが、1999年4月神経内科開設に携わり11年間、副院長として8年間と合わせて19年間皆様方に支えられて参りました。今年3月で定年となります。長い間ありがとうございました。引き続き当院の医療連携にお力添え頂けますようにお願い申し上げます。

旭川赤十字病院 前副院長
吉田 一人

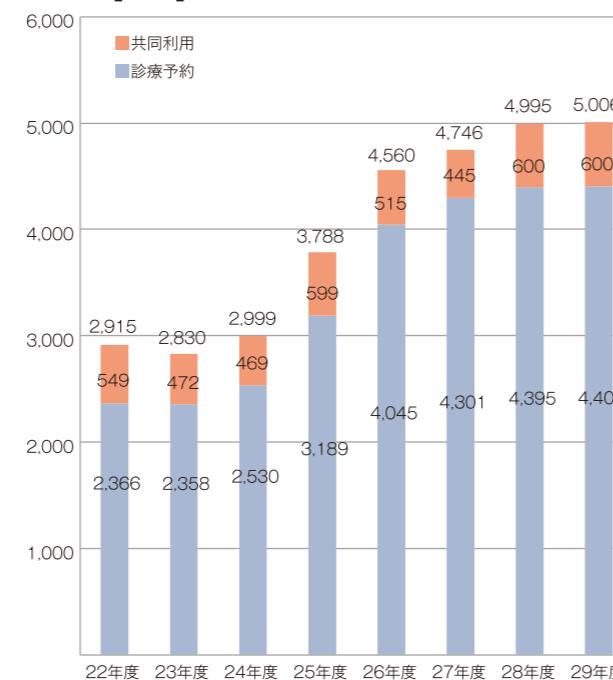
吉田医師には4月以降も神経内科の診療を担当いただいております。



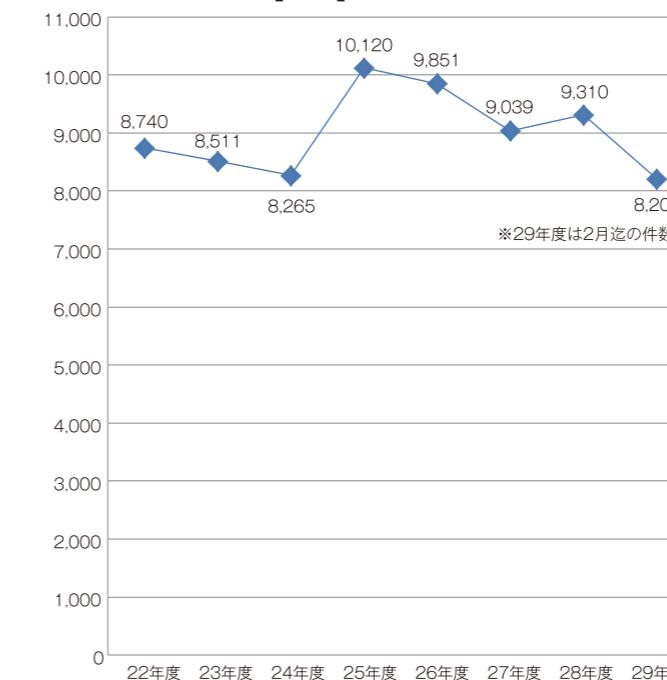
[図1] 救急車搬入台数



[図2] 地域医療連携室予約件数



[図3] 逆紹介患者数



ISO15189認定を取得して

この度2月15日に開催されたJAB認定委員会において、ISO15189認定(基幹項目、非基幹項目、病理学的検査、生理学的検査)が承認された事を報告します。4項目の認定を受けている施設は全道では初めてとなります。

さてISO15189とは臨床検査サービスの品質とそれを提供する臨床検査室に必要な技能を規定した国際規格であり、2013年7月1日の厚労省からの事務連絡「国際共同治験や医師主導治験をはじめとした治験又は臨床研究を積極的に実施している医療機関では、当該医療機関の検査精度を確保するため、ISO15189等の外部評価による認定を取得する」また、2015年3月31日の医療法の一部改正により「ISO15189等の外部評価を受けた臨床検査室が臨床研究中核病院」の必須条件となりました。

前回の診療報酬改定で「国際標準検査管理加算40点」が新設された事も追い風となり、検査室も取得準備に入りました。2016年10月のQMS(Quality Management System)ラボアカデミー参加に始まり、要員(ISO15189ではスタッフの事を要員と呼びます)への周知によりキックオフ。2017年度末までの取得を目指し要員による作業が始まりました。ISO15189には4章(管理上の要求事項15項目)5章(技術的要件事項及び附属書10項目)の要求事項があり、精度管理・人事管理・環境管理・文書管理・力量評価等を明文化し、整合性のとれた文書として保存する事が要求されます。文書管理・記録の整理等を始めてみると膨大な作業量を要する事が解りました。

要員はルーチン業務の合間を縫って、またルーチン業務終了後も遅くまで作業に取り組みました。要員のモチベーションの維持には絶余曲折があった事は否めませんが、予定通りに



2017年度末までに取得する事が出来ました。

検査室全体の機能を良好に維持するにはコンプライアンスを遵守し、要員の安全や責任体制を明らかにする事などが最終的には顧客(医師・患者)のためになる事になります。また、今まで何気なくしてきた検査室運営が、全ての事項で国際規格に則ったルールで行う事になります。例えば検体検査を例にとりまると、今までも「精度保証施設認証」を取得しておりますが、これまで検査結果の精度管理を重点的に捉えた感がありました。しかしISO15189の要求事項では患者の受け入れから始まり、採血・到着確認・検体前処理・分析機への装填・検査結果確認・検査結果報告・検体の保管・破棄に至るまでのプロセスが重要で、全てが要求事項通りに行われているかが問わ

れます。また、検査を行う環境も要求事項に含まれ、汚染・非汚染エリアの区別、試薬・温度・湿度の管理、遠心機校正・ピペット検定等も国際規格に準じていているかが審査されました。キックオフからほぼ一年後に認定を取得できた事は、要員全員による努力の結果であり感謝しております。

まだまだ日本でのISO15189取得施設は世界的に見ても高い方ではありません。海外では、オーストラリア(約700施設)など従来から認定制度を必須としてきた国もあり、欧州でも強制規格となりイギリス(約900施設)などでは急激に増加しております。アジアではインド(約600施設)や中国(約200施設)の認定数增加は目覚ましく、台湾(約200施設)ではほぼ全ての検査室が認定を取得しております。社会全体が国際化の流れにある今日においては医療だけが特別な存在ではなく、むしろ人命を預かるからこそ早い段階からの国際化が求められると認識しております。



今後は、国際規格に則ったQMS維持管理に対し、明確なビジョン(品質方針)を描き「言語化」「成文化」し要員に周知させ、全ての要員が顧客重視の意識を持つよう意識改革を行い積極的参加のための環境を提供し、PDCAサイクルによる継続的な改善を行う事になります。認定の有効期間は4年間ですが、認定取得後に2回のサーベランス審査を現地審査で受審し、かつ4年経過する前に更新審査を受審し認定の更新が認められる必要があります。この様に要員による継続的なQMS維持管理が必要となる訳ですが、今後は検査室だけでなく、病院全体で国際規格に則った運営が必須になる時代が来るかもしれません。

医療を取り巻く環境は厳しい状況が続いておりますが、「国際規格で認定された検査結果を提供する検査室」として地域に貢献できますよう要員一同努力して参りますので、今後ともよろしくお願い致します。

(文責:検査科技師長 都郷 憲之)



地域医療連携室からのお知らせ 平成29年度に開催した講演会・研修会をご紹介します。

医療連携の集い(日本医師会生涯教育講座・日本歯科医師会生涯研修事業)

当院の診療情報などを地域の医療機関の皆様へご紹介しております。
終了後は情報交換会も開催いたしました。

■第19回 日時／平成30年2月13日(火) ■会場／アートホテル旭川

- 演題①／めまい患者に対する集団リハビリ治療の取り組み

旭川赤十字病院 耳鼻咽喉科 部長
長峯 正泰

- 演題②／外科新設、肛門外来の紹介

旭川赤十字病院 外科医師
市村 龍之助

- 演題③／訪問看護ステーションの紹介

旭川赤十字病院 訪問看護ステーション 保健師長
松田 哲子

- 演題④／脳神経外科治療と地域連携

旭川赤十字病院 脳神経外科 部長
瀧澤 克己



症例検討会(日本医師会生涯教育講座・日本歯科医師会生涯研修事業)

地域の医療機関と当院とで連携し診療にあたった症例についての検討会を開催しております。
なお、当課では症例検討会の発表を行っていただける先生を大募集しております。

■第16回 日時／平成29年7月11日(火) ■会場／旭川赤十字病院

- 症例①／血液透析患者のC型肝炎症例

永山腎泌尿器科クリニック 院長
水永 光博 先生

旭川赤十字病院 消化器内科部長
長谷部 千登美

- 症例②／汎血球減少症を認めた一例

永山池田クリニック 院長
池田 隆一 先生

旭川赤十字病院 血液・腫瘍内科 副部長
小沼 祐一

■第17回 日時／平成29年10月12日(木) ■会場／旭川赤十字病院

- 症例①／超音波加湿器の使用により生じた急性過敏性肺炎の一例

四条はらだ医院 院長
原田 一暁 先生

旭川赤十字病院 呼吸器内科 部長
北田 順也

- 症例②／治療に難渋した下顎骨頸骨壊死(ARONJ)の一例

矢口歯科医院 院長
矢口 敦久 先生

旭川赤十字病院 歯科口腔外科 部長
岡田 益彦



医療機関職員研修会

医療法施行規則(平成19年厚生労働省令第39号)に基づき、地域の無床診療所等の医療機関職員を対象に医療安全・感染対策に関する研修会を開催しております。

■第19回 日時／平成29年7月29日(土) ■会場／旭川赤十字病院

- 演題①／転倒予防の知識と対策 一外来・入院一

旭川赤十字病院 看護副部長
医療安全管理責任者 前田 章子

- 演題②／もう一度確認しよう、注射の管理

旭川赤十字病院 看護師長
感染管理認定看護師 市川 ゆかり

■第20回 日時／平成29年10月7日(土) ■会場／旭川赤十字病院

- 演題①／認知症の人の医療安全

旭川赤十字病院 看護師長
認知症看護認定看護師 杉山 早苗

- 演題②／チームで取り組む排尿自立支援

旭川赤十字病院 看護係長
皮膚排泄ケア認定看護師 宮崎 真弓



市民公開講座

地域住民の皆さまの健康増進を図ることを目的として開催しております。

■第17回 日時／平成29年8月27日(日) ■会場／旭川赤十字病院

テーマ「健康診断」のお話し

旭川赤十字病院 外科部長 真名瀬 博人

- 演題①／乳がん検診のお勧め・早期発見が大切!

旭川赤十字病院 脳神経外科部長 瀧澤 克己

- 演題②／脳ドックのお話し

旭川赤十字病院 副院長 森川 秋月

- 演題③／生活習慣病健診の意義

■第18回 日時／平成29年12月9日(土) ■会場／旭川赤十字病院

テーマ「感染症」のお話し

旭川赤十字病院 消化器内科部長 長谷部 千登美

- 演題①／ウイルス性肝炎について

旭川赤十字病院 歯科口腔外科部長 岡田 益彦

- 演題②／歯性感染症について

旭川赤十字病院 看護師長感染管理認定看護師 市川 ゆかり

- 演題③／インフルエンザ対策